

2014年11月17日(金)  
京都大学防災研究所共同研究一般研究集会

## 伝統木造建物の耐震性評価方法の 画一化に向けた研究集会 まとめ

秋田県立大学木材高度加工研究所  
渡辺 千明



- ③非破壊調査  
常時微動 有効性の共通認識  
劣化調査 課題多い
- ④フロアから  
伝統木造の定義  
社会的コンセンサス

### 蛇足

- ・個有知を共有知に: 研究者 所有者・施主ほか実務者 行政
- ・地域社会の実情 住まい手・建築材料・技術
- ・何(どこ)を残す? 文化財 観光地 建築文化  
地域のアイデンティ



主旨説明: 多幾山(首都大)  
地域固有の構造仕様を反映した耐震性評価方法の画一化

- × 全建物において同一の計算
- 地域特性を反映した手法: 構造調査項目  
調査や耐震性評価の際の留意点  
将来の目標

パネルディスカッション 五十田(京大) 目前・少し先・ずっと先

- ①建物構法調査  
地域の違い: 構法・社会状況・自然環境 ←分類と対策  
評価手法の統一 : 地域特性? 構法特性? 材料特性?  
性能評価のためには実務につながる具体的設計  
・・・実験・データベース公開・類型化←解説・教育
- ②地震動確定  
ハザードとその対策の整理: 倒壊のメカニズム評価  
安全性の判断